

ル 2
3403
3





和蘭產物圖考卷之四

勢州



○長人

長人国又智加國と名く地方頗冷也人の長一丈
斗遍体皆毛有り弓矢を持矢の長六尺一の
矢拔掘こしと小口中挿入羽と没せり小ぶて勇
氣を示男女五色と面小画く文飾と有也
膚て地を掘て人の齒を得きり潤さく三ツ指を有

三才圖會

うへせらるることく長きより四指餘蓋なるじりし
 人々も長き事を昔時和蘭の人には海にも
 唯ち地荒濶おしむ屋の上も一室屋なり其屋
 作りて高しうちお火紙焼め下なり人こしに飛
 又亭主のことと共らう是と老の人ふくふれか
 長大なるるる二倍船中ありて水波は
 んと欲しそ敷人小船おのり河へ入るは
 待小二日おして竟おぬる事を始に哀ふおそ
 きて船おのりしにげ去るいふこと人を目えし
 上

未見異言を聞よる巴大温即長人園こと
 ありけむの人長とて大地伯西見の南ふりて
 とり又云伯西見の南ふりて巴大温ありて地
 の人長八尺ゆへ長人園より伯西見ハ南海の
 中ふりて大陽正しくそ上をよといふ極極の
 也長人園を西ふ不在とも執固にけむ長人
 智か固と名け地す頗冷なりやふふふ又
 通商考を聞よるふけ固ハ七島の寒く固なり
 いふおてあるべし

長人



聖物圖考



摩訶羅方 卷之四

○異雞

墨王是可國雞あり大さ鶴のことく羽毛のよきて
華彩也味最よし吻と小鼻ありく象のことく
伸べく縮む也一ちめハ僅小寸餘伸ハ五寸許怒
とさハ血鼻みあつまつて赤尾を用ハ孔雀のや

○無對鳥

瓜哇鳥等處多あり無對と名くありは腹
の下に長さ皮と生れそかち筋のことく樹り
纏て以才を立毛の色子彩光耀てま髪を
へしそ飲食をんそおりのみそく氣を服する也

ホリス
ゴルス

け地氣候常に熱して穀一歳小再ハ孰つて
豊饒なり西南徳重の要令にそ金玉充
満せり地南海中にありて瓜哇即都也俗暹羅
と教せり髪赤く面て黒く肩小文身乃老あり
男ハ頂蓬の如女ハ白布を纏也そ産物了子
靜腦胡椒肉荳蔻擲咬啣吧嶋あり日本
みてシマガララリノ嶋といふけ地に出也

○白鼻角

印度國剛霸亞の地獸也産れ鼻角と名く才
乃長象のことく足みじかく遍身そみ黄小

して班點有り、鱗介あり、矢も透る事あり、
あつて鼻上一つの角あり、堅き洞鐵の
ことく、將小象と對しんとするとも、山石めて、
角を磨る象の腹小觸て、乞と敬死す。

○乳羊

南印度國山羊を産す、頂あり、乳をせば下り、
垂る乳最肥壯、目も眼目甚靈明なり。

○般竹牙拘

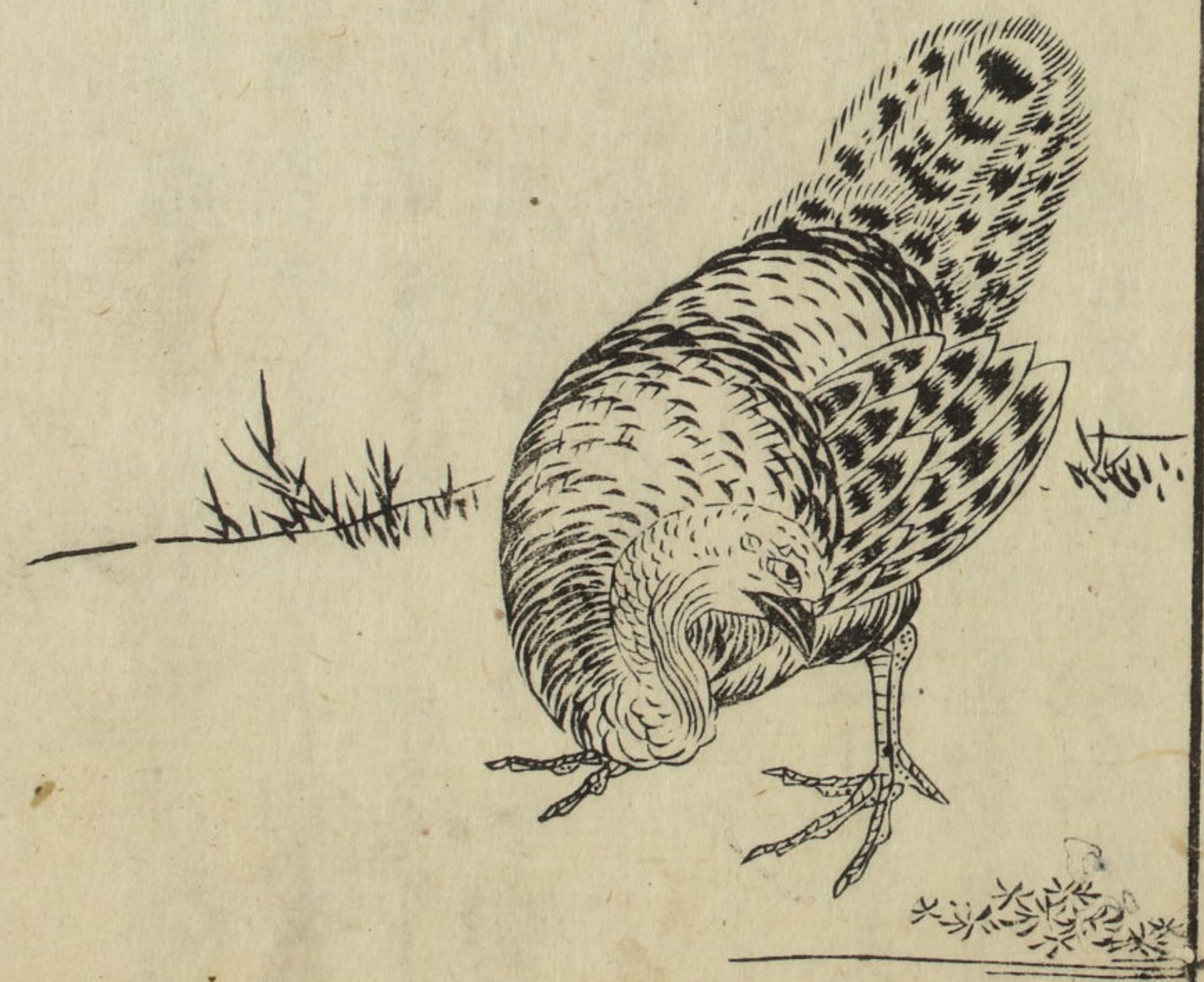
意大理亞國巴鐸河に般竹牙拘と名付、昼は
小溜り、夜は旱地、小臥す、毛のこつた、黒

以貴しと云、能樹木を繋ぎ、利する刀の如し。

○大懶毒辣

意大理亞國小蜘蛛の形あり、其名大懶毒辣と
し、人を蝨人せ、毒を受れば、即風狂のこつと
或嬉笑、或跳舞、或仰臥、或奔走、其
毒人の氣血あり、比年必く、疾を療
せらる、小口人の本姓、小もろ、その音樂と云、
と解さる。

聖書載する、不佞國一草あり、大懶毒草と名付、
根一虫を生じ、大懶毒辣と云、人觸ると、轉狂癡
と云。



異雞



書語
ダン
シ
一

○獲落

里多瓦你亞國獸或巖山獲落と名く或大
て獲ることく毛尾を黒く光潤ありて皮また
つと一性死屍を嗜む食を貪るく厭るなり
蛇とさへ去て樹林の稠密なる中み入りて腹を
變て泣くせしめ又他食或見

○撒刺漫天辣

熱爾馬尼亞國獸と名く皮を撒刺漫天
辣といふけ獸冷濕の地み巖と性甚々ちて
皮厚く力強く火を滅毛の色黒黄間雜はて

書語
ヒラニ
チル

北月次日くろがと長一尾おびて班點あり

け固水の境ふりくそ地極廣大也人物風俗
和蘭とお類は地金銀水晶爵金とあり
土氣を強ちて培と産せり山海經と見
ゆる小載る不乃火氣者そ小類とる也

○狸猴獸

額第約必牙回獸あう上截ハ狸のことく下截ハ猴
の如いろ尾灰のごとく撞腹皮囊の如く獺人
乞を逐とき其子を皮囊乃内小藏して大樹
の中小窟を樹の徑約一丈餘あり

○息夜納

和未亞州獸あり意夜納と名く形色犬狼の如
目精みくよく各のよふ變て人の音聲或は
お目へく夜人を喚誘て啖といふ

○小種

智勒國異獸と産はるを小種といふ尾長
く大みく身とおひとに楯人毛を逐し毛を
毛を小背に負て尾をひきを蔽ふ急なること
ハ吼聲洪大なり人をもく震恐せしむ

○長吻鵲

伯西爾喜鵲吻もくて牙とおひとく牙がて
軽くやう紙飛ともく紙のこくく見ゆ

○無目蛇

伯西爾蛇あり大小く目なき樹乃上小盤旋
元の獸や旁紙經過はれハ氣を穿て即緊小
毛を樹の間へ縛て食といふ



角が鼻



○駱駝鳥

南亞里坐利加州小駱駝鳥其産す其形駱駝に
似たり其禽の中ふく最大なる者也首馬小糸人
よりも高く立ち翼は張大なり其羽の如
馬よりも毛を以て腹中甚熱なり生鐵を化す也

○不二鳥

亞蟬及亞国多あり不二鳥といふ其鳥命四
五百歳也自死するなり其羽を以て香木の枯枝に
聚るく其上止まりて炎天の時を待て尾をくく
して火燃自焼死す其産すは国小只一處あり

死するといふハ又一鳥を生むこの四小國の諸國
人物奇異なり二ツなるものハ不二鳥といふ
又此国小廣さ十五里長さ十里の湖あり其味
甚鹹也其水清なり松脂の滯り如く物を以て
沈むるなりあつたは押入きとも不入といふ日の
光る水面を照すと其ハ湖中桑心く其その映光
を生むといふ玉産ハ合浪多あり其国の西ハ八百里
なり入海あり其海深常に赤なり其血のことし
是を死海といふ

和蘭産物圖考卷之四終

和蘭産物圖考卷之五

勢州 藤元良 校補

○把勒亞

海旗あけそ窮はくまべかき鱗介より外元陸
地の走獸小海中相似もの多し此魚旗一名把
勒亞身數十丈首小ニツの大なる孔ありて水を噴
上り出る勢懸河のこじ海船を見れば首旗
昂て水を注入少し乃る小船中水満て船沈む

是の邊ふまの酒波 鉅の頭尾小盛く、こぼれ
投られ、連吞數鬣首を悦く、液を不遊
とろり滑り、油不熬事數千斤

○斯得白

一魚斯得白と名く長二十五丈性最はし、令
扶助漁人、魚の為不困、さうく、こぼれ、魚、
鬣く、漁人の尻を解け、ゆ、不困、法人のけ、魚、
捕こと、城、林、示、と、い、ふ

○薄里波

一魚薄里波と名く、さうく、物、不、志、た、ふ、さ、う、
一

土不附と名ハ土色乃ことく石不附、た、は、ふ、さ、の
こと

○仁魚

一魚仁魚と名く西書記嘗一小見を負く、山、序、不
登、て、た、ま、く、鱈、を、以、て、さ、見、を、觸、傷、せ、れ、て、見
死、す、と、述、ハ、悲、痛、ふ、た、ま、と、亦、石、不、觸、て、死、す

○劍魚

一名劍魚、嘴長丈許、齧刻、鋸、の、こ、と、た、あ、う、極
小、さ、か、強、く、把、勒、魚、少、く、戦、小、海、魚、は、紅、た、り
け、魚、輒、勝、を、嘴、以、船、小、觸、て、破、る、海、船、甚

こまじと恐ろし

一魚之長十餘丈濶丈餘目の大き
計尺許頭の高きこまじ八尺口八腹の下ふあつそ
齒三十二齒長く徑尺頭骨もすこ長るお六
尖迅風起きハ曾て衝海涯お到る

一魚其大おしそ力強海船をふあハハ魚つ
いお尻尾をひておの頭を抱へこまじかま
お人おとらこんおまおハ一動あて必覆らん
るを恐る蹴て天を祈るハ須臾そ解云

○刺瓦而多

一魚鱧魚のこと刺瓦而多と名く尾長おし
鱗かこく刀箭も入こまじあつは是お利爪
て鋸乃如し性も擲悪也水み入てハ魚を食し
陸小登てハ人畜擇こまじなるハ魚を近こ
お避きこまじ行こまじお遅く小魚百種をこり
おこまじハ代魚小吞まんをさけて也子を生
初我鳥乃卵のこまじく後おお長く長くそ二天に
おる毎に涎吐おおハ人畜を踏ハ眩んて
即時お休るこまじ然てこれを食そ凡物に
と用こまじ下類をこまじおまじ魚おこまじ上

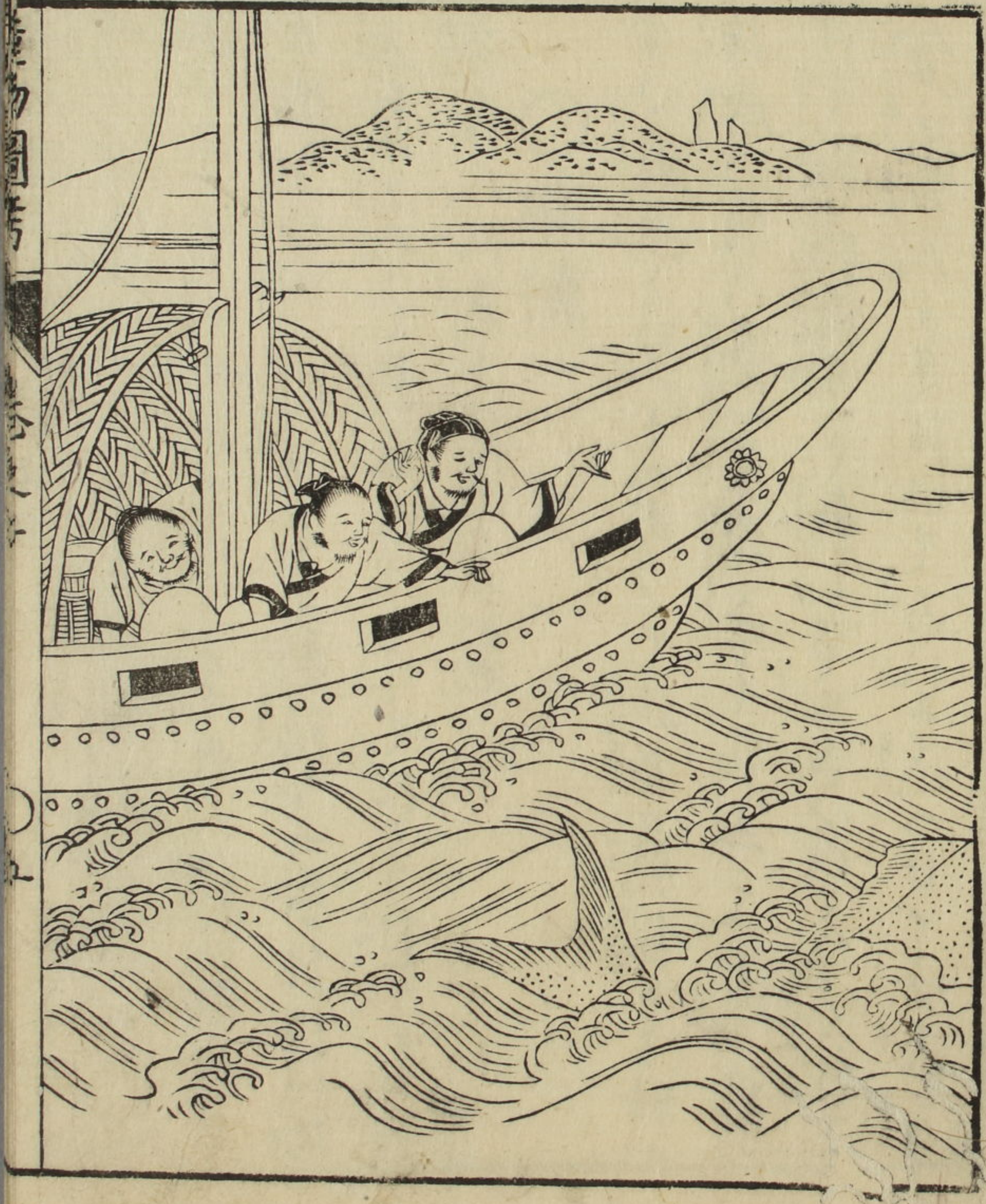
を動口中舌の冬月物と食せし人をも
 見く却走必逐くこまを食せし人返てあれを
 逐く彼亦却走く月あふ入とさハ鈍水を出
 きハ極明なり人ををく見ると此ハ哭一進
 と此ハ噬故ハ西國にて假慈悲と稱もの邊
 鯨魚長二丈余四足あり罌小似たり齒多
 利一麻とくくあに入腰と齧て即折

○落斯馬

落斯馬と名くあり長四丈をかり足トカ海底
 よ飛出罕に水面に出皮を去かて刀を用て殺

とも入魚加くは額小角ありて釣れあはく
 とくハ角を以て石小掛日とけくく醒とといハ
 一魚背獣の形體なり稍方也そ骨軟脆少そ
 翼ありて大風鼓く海船を西復はそ形
 ともく大いそ色このや

又一獸あり二手二足氣力猛遠く海船を逐
 輒顛倒播弄はたわハ波瀾におそを海魔
 少いそ小なるもの飛魚あり僅小尺許
 水面につわく飛拘魚少いものありて飛魚
 の景をうぐいさる先そ下にむりそ口は開待て



魚狗

魚飛



厚物圖考
卷之十

啖つる小虫こと数十里飛魚ヒラメ魚イサナのりともハ輒たま
 舟小上りて人の為小浮く舟人カヌエ雞カウの卵或を
 白練シロヌと名な四小シヨ飄揚ヒラユ是こ利物リモノをつ家イたはけ拘
 魚イサナあやましく飛魚ヒラメありとてたう起たては
 吾われ舟人カヌエ此こ為な小獲シヨクとくか也

○麻魚

麻魚アサギといふものあり其状極ま麁ろ餓うき時ハ
 海底カイテイの魚イサナ入イ聚アる小潜シヨウ舟フネ凡ソレ魚イサナ身ミ小近チカつ
 けを即時トキニ麻木マヒく動うく少すあさらはらるる能たり
 食くら之を若人ニ足た減る以ておれみ近ちかつけを必ま麻ま木く
 食くら之を若人ニ足た減る以ておれみ近ちかつけを必ま麻ま木く

○風魚

西紅海セイコウカイの風魚カゼイサナといふもの此をアサギと云いふを以て風
 と占とふ也國人ウチノヒトこまをアサギといふ輒たまて房ハ内チに掛かては
 首カビむかふ即風ソレ起たるの方カタといふ也

○海蝦蟆

地中海チウカイの海蝦蟆ウミカマと云いふは其色石イシや同儼げん時
 小牙コバ石イシ内チは潜シヨウ鼻ハ一ヒトの紅線ベニセン小蚯コキリ蚪トの如ごとも
 の吐はくくを以て小魚コイサナ小餌コエを衆魚アサギ畏おそる石
 内チの小虫コムシかうとてアサギ半ハては是を人食ヒトクラといふ
 小口コクチ入イ

海蝦蟇

海物圖考

卷之五

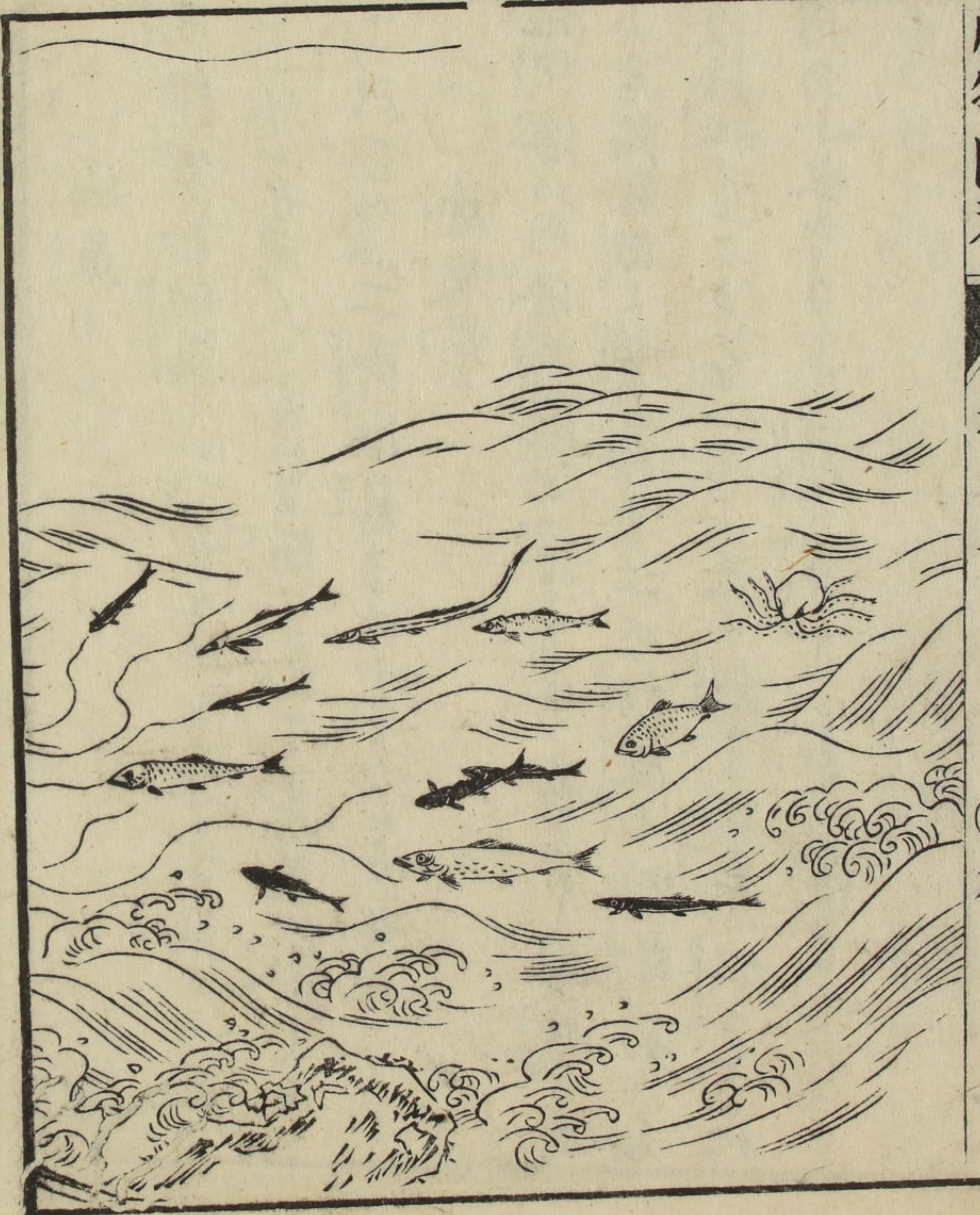
七



海物圖考

卷之五

六



○海馬

海馬ありて牙堅白瑩淨文理細小して綵髪さいはつの
こより念珠ねんじゆ等のもれ小なるをへ

○海女

復海女ふかづなあり上體ハ女人のおとく下體したたいは魚の形
なりて骨念珠こねんじゆやちあは服くわ之下血したちと止とどべ海
馬牙海女骨の二つのもれを魚骨中いさなほねちゆうの上品じゆんひん小く
国王こわうこも氏貴堂うぢきだうとよ

○海鳥

海鳥二種あり一ハ島中しまちゆう小宿せきは者常に海面うみを

飛と賜み海船うみふねそにあへハ海嶋うみじまの遠近とんじんとよへ
又一ハ海中うみちゆう小生せう長ちやうく登のぼ山やま岸きしこもれ去さるハ船
上うへを取とらん欲ほくく皮かわは水面うみづらに布ぬ釣つりり
餌えと着つけて皮の上かわのうへ置あくす就つきてを食くはらね
釣つり又鳥とりく魚いさなを捕とら者ものあり身みは皮囊かわいぼを
穿くして網あみの如ごとくあみ入いりて魚いさなはつみ出でまハ人
を食くはれ也

○海雷

海雷うみらいといふ者ありてかこら蝸牛かきまの如ごとく海
面を飛とりてこもれたたなるる雷鳴かみなりの如ごとく候あり

て船中小飛入をいハこころめてし船の底をうらめく
故小船中をこきりては恐る海雷飛とをを白
布張てを飛入を避ハハ也

○海人

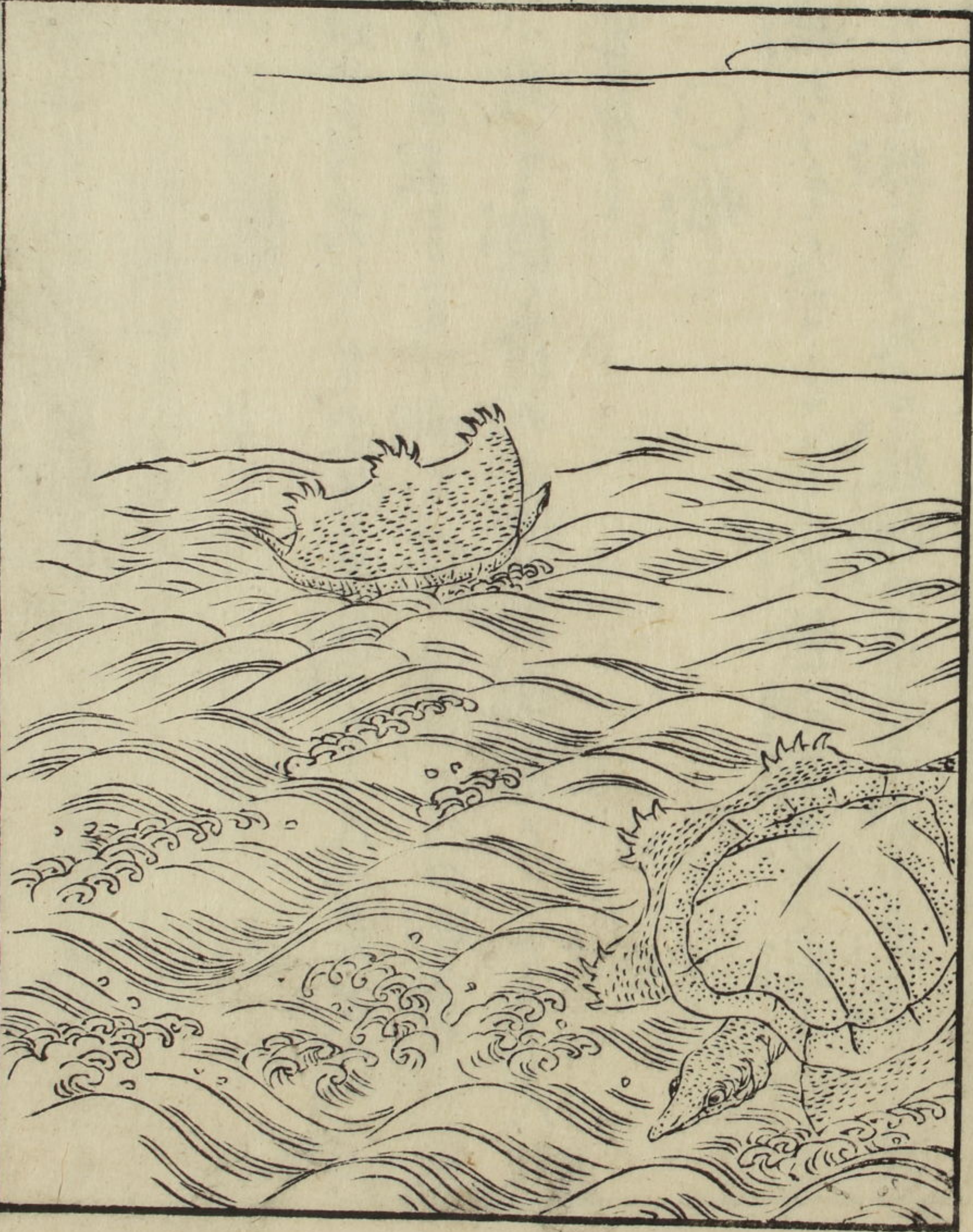
又極異なるもの海人二種あり其体こそ人か
髪須眉あつくを具たて手の指畧相連なりて魁
の爪乃あつくあり西海曾て捕得之て國王おまむ
あゆふ言詔する小應せを飲食を興ハハ不食
王たも了く押へかたをせし大もは海小縦に
轉躬掌を鼓大にりひ去二百年前西洋小一女

人を獲きうくしき小食残興まハ輒食一たり人
乃為小役使まを活ふ事多と年只ものり
あつはれを身肉皮あつて下に垂る地小なる夜
袍を服するごとく然ともやうく體み着て正
脱へかへけ二る者こそ性情まれまを旗類は
又其海宅いつま地下に在るまをまは人小似
人にあつは良怪む也

○艇魚

似あつこれを魚小屬を僅に尺許殼あり六足
形に皮あつて他も徒人とおもふとまハ甲殼を

魚船



厚物圖考

卷之五

九

舟よりし足の皮張る帆となり風に乘る也
名て船魚ふねいしなり

○蟹かに

蟹あり大にして大餘を殼かきめて人の首を捕とらへ人
乃首立くさねと云ふに断人の眩くらを捕とらへ人の眩立くらたてと云ふ
小断を殼かきを比ひみみててハハ蜂はちまき屋や乃のここゆゆ人に出で
容いゆる

○蛤かき

蛤あり大なるここゆゆ大餘小民おほひたみをと取とりて宇うと
ななるる珠たまあり大おほきき雞卵けいらんのの大おほききととてて光ひかり堂どう王わう也なり國

王わうこそと貴重たかなりなりかかののととをを珠たまあるもも此これれをを小
萬中乃一也

○海産かいさん

西にし齊せい里り亞あの地のちハハ意い太たい里り亞あ北きた南みなみありて海中の
小島こしまなり紅珊瑚こうそうごと生なままるるりり於おかかりり海うみにに出でる
ふの樹き大おほききなるものものハハ四よ五ご尺せきハハ色いろ南みなみ才さい法ぽう國こくのの産うんんを
るるものものハハくくららみみれれハハ大おほきき鮮あざ明めいなりなり寛かん永えい庚こう甲こうのの年とし
叶は嶋しまの人ひと日本にっぽんにに来きるる番ばん食しょく衣い食しょくをを給たまふふ亦また石いしをを名な
張は余あまりり岡おか本ほん三さん石いしとと稱なづかかるる年とし七しち十じゅう餘じゅうににてて延
宝ほう年中ねんちゆう小こおおりりてて死しす

海産の珠を以て貴しきやせき意蘭最上
 なり土人蚌と取く日中に置かれと晒し口は
 れのつかり用紙まらしく然後とる珠鮮面白くし
 て光瑩ありく大なるり雞の卵比こと南海
 皆蚌殻よりて珠を出せ其珠色黯あしく光は
 又珊瑚島ありて下に珊瑚あり物海中あり
 とくハ色緑中々質軟なり上白子生を人
 鐵の網を以てとるは其を出世ハ即堅紅黒
 白の三色あり紅ものハ堅やうと蜜やう白黒ある
 者ハみくみ又大浪山は東北の暗礁あり水涸て

礁出来心ありに珊瑚あり小西洋琥珀あり歌
 邏巴波羅尼亞あり沿海く三十里ありこれ
 風浪ありく湧也龍涎香黒入國あり伯西兒あり
 海最あり大塊の重さ千餘斤のものありこれを
 のそくみくみありのこやし風濤波なるごとく浪
 て岸あり泊るも波くは虫魚獸もろろんく食之

和蘭產物圖考卷之五終

和蘭產物圖考後序

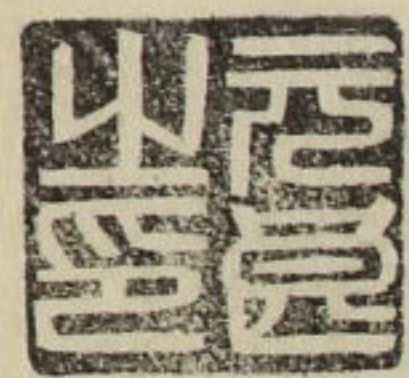
黃卷氏姓林者偶來訪余僑居而
談次及亦書者余探書篋中示之
曰此書也余昔載客遊于崎陽而
得於書坊閱之甲乙次序散缺不
全且失撰者名書中產物雖有以

可備于醫西療者余之固陋未能參
考之藏以待他日之舉林氏拍掌曰
有是哉向僕之家亦有此書上木之
舉既而有八人來奪去以故上梓
之業廢矣爾後世之由得之
今幸見此書君若加考訂而

授余則梓以傳焉余曹涉
以非當其分辭之屢乞不已故聊
校正而雜圖于書中以備兒女
之玩弄唯恐未免北轅而之
林之耳

寬政八年丙辰夏五月

勢陽 藤元良識于平安偶居



伏水 墨池 龍世文拜書



産物圖考後編嗣出

法橋西村中和



彫刺 丹羽庄兵衛



寛政十年戊午春發行

寺町通二條下_ノ早

平安書林 林 權兵衛

